2000

（平成12年）

理事長 三宅　浩正

1月
- 第1回定時総会（東京第一ホテル松山）・例会「新入会員入会式」「年賀親睦会」
- 京都会議

2月
- 例会「語ろう　21世紀のライトアップ」（本町会館）
- 四国地区協議会「GTS」（カンボジア）

3月
- 例会「俳句甲子園 in JC」（本町会館）

4月
- 松山春まつり
- 愛媛ブロック協議会指導力開発委員会研修会「対話のできる頼もしいひとづくり」
- 会頭公式訪問例会「エトバス・ノイエス（新しいことを始めよう）」（松山全日空ホテル）

5月
- 愛媛ブロックスポーツ交流大会（西条）
- 公開例会「明日は我が身だ!想像できますか!あなたの老後」（本町会館）
- 第19回全国城下町シンポジウム岡崎大会
- 第14回わんぱく相撲まつやま大会
- ゴミゼロフェスタ2000
- 愛媛ブロック協議会指導力開発委員会研修会「対話のできる頼もしいひとづくり」

6月
- 第30回愛媛ブロック会員大会（大洲）
- 水問題講演会　「水問題について未来を考える」
- LD道場
- 例会「みんなで育てようマリネット」・第1回臨時総会（本町会館）

7月
- 家族例会（南海放送本町会館）
- サマーコンファレンス
- 第15回わんぱく相撲全国大会
- 第25回市民大清掃
- GSDF・YEG・JCソフトボール交流大会

8月
- 松山JC創立記念パーティー
- 松山まつり
- 第3回俳句甲子園
- 第2回臨時総会・例会「誇り、気概、自立、まつやま@日本［～いきいきとした「わがまち、まつやま」の創造］」（コミュニティセンター）
- 四国地区会員大会（須崎）

9月
- 第17回まつやま市民シンポジウム
- 四国地区協議会ひとづくり研修委員会ひとづくり研修「これでいいのか　JC　俺がやらねば誰がやる」
- 例会「みんなでなろう地域の先生」（コミュニティセンター）

10月
- 第49回日本JC全国会員大会（福山）
- 指導力開発セミナー
- 例会「棚卸し　松山まつり」（コミュニティセンター）

11月
- 第2回定時総会
- 例会「山本恒久次年度理事長大いに語る」「「わかつばき」を考える」（本町会館）

12月
- 例会「卒業式」（東京第一ホテル）
- 第8回松山ライトアップ事業

▲第1回定時総会・1月例会新年会

▲2月例会

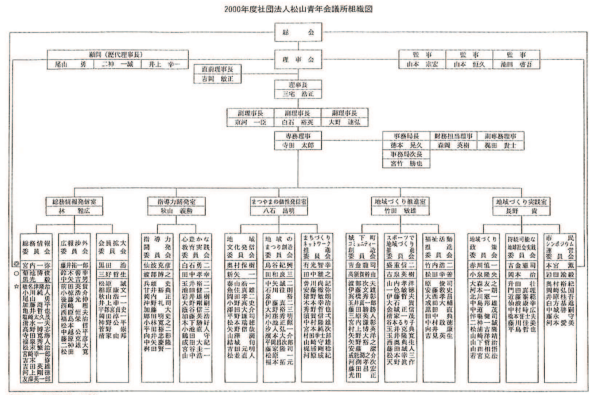
▲▶GTS（カンボジア）

2000年　松山市の動き

2月　男女共同参画推進センター（コムズ）オープン
4月　中核市となる
5月　坊っちゃんスタジアム完成

いきいきとした「わがまち、まつやま」の創造
～育もう、豊かな心を。築こう、自立の心を。築こう、地域の明日を。～

▲4月会頭公式訪問例会



▲ライトアップ事業

▲第3回俳句甲子園

▲家族例会

▲9月例会

▲◀第17回まつやま市民シンポジウム

社団法人松山青年会議所2000年度理事長所信

社団法人松山青年会議所
三宅　浩正

いきいきとした「わがまち、 まつやま」の創造
～育もう、豊かな心を。 繋ごう、自立の心を。 築こう、地域の明日を。～

～はじめに～

子供たちを見ていて、ふと感じることがあります。
子供たちは自分の得意なこととなると、積極的にリーダーシップを発揮し始めます。
それも 嬉々として発揮します。そして、そのことを苦手とする子供たちの面倒を見てあげたりもします。

これらのことは、本来「他人事」であるにもかかわらず、楽しんで面倒を見ています。極めて自然に「他人事」が「わがこと」に変化しています。多分、そこには、子供たちなりの「思いやり」「達成感」「使命感 J などもあるのではないでしょうか。「指導力を発揮する」ことを自分で選択し、何の苦痛もなく楽しみながら「選択した責任」を遂行しています。

「自己責任」で選択・行動するというのは、こういうことなのか、と感じるのです。

2000年度の社団法人松山青年会議所は、自他の「相違」を、相互に発揮すべき「個性」として尊重し合い、誇りと自信を持って自らを表現することによって、無限の可能性を持つ明日を築いてゆこうとする自立した「個」としての市民・・・そんな心豊かで、いきいきとした、気概溢れる市民の繋がりこそ地域を輝かせ、その輝きこそが国家の明日を切り開き、歴史の流れをも変えて行くと確信します。

そして現在の閉塞感に満ちた社会を、そこにある様々を「わがこと」として捉え、青年とされる私達の世代こそが、次代へ向けた新たな価値を築いてゆくという使命感と自覚を持って～いきいきとした「わがまち、 まつやま」の創造～に挑戦します。

～できることは自分からやる～

「松山青年会議所設立趣意書」によれば、私達の先輩諸氏は、戦後の復興を「わがこと」として捉え、大変な気概を持たれて、地域の未来を憂い立ち上がったことがわかります。それから約50年後の現在、行く先不透明な社会状況の中、私達にもはたすべき使命があるはずです。

いつの世も、時代の転換期（明治維新・戦後復興等）においては、青年とされる世代が新たな価値を築きました。そして今、私達は、時代の大きな転換の真っただ中にいます。物の豊かさから心の豊かさへの価値観のシフト、真の民主主義を実現する行政体制のありかた、市民のありかた等、他にも直接的に手を下せることが、実際に身の回りにあることに気付きます。

「できることは自分からやる」そんな姿勢で身近な物事を捉え、良心に基づき、誇りと勇気を持っ

て実践をしてゆきます。一つひとつを取り 上げれば些細なことばかりかもしれませんが、これを丁寧に積み上げてゆきます。

日々の、 小さな一歩、 ときには大きな一歩、いろんな一歩。

しかし、 全ては意味ある「弛まぬ一歩上,

こんな歩みを行う青年が地域に増えれば、必ず地域は変わります。そして、私達は、最もそれらをやりやすい場所〈ＪＣ〉にいるのです。

～誇り～

前述した「弛まぬ一歩」を、私達が実践してゆくにあたって、 まつやまの市民としての、また日本の国民としての共通認識として持ちうる、正当な自負の結実としての「誇り」とは何かを確認する必要があります。

今さら「誇り」についての頃旧認が必要な先進国」というのもどうかと思いますが、残念ながら、戦後においては、東京裁判のアウトプットとしての「誇りを持てない教育」しかこの国は持ち得なかったというのも現実なのです。近年、明らかになってきたように、 また多くの識者の主張するとおり「戦後の 7 年間」で日本は社会システムのみならず、「誇り」まで解体され今日に至っています。

そんな今、 切実な問題として、日本における確かな歴史観の確立が必要とされています。

私は、戦争という「手段」については断固肯定をしません。しかし、 明治においては、アジア諸国の被植民地化の惨状を憂いて立上り、有色人種では唯一の近代国家を立国した、日本人の気概と行動力は誇れるものです。そして、搾取するか、されるかしかなかったヨーロッパにおける「帝国主義」を日本が崩し去り、結果として今日、世界中から人種差 別が追放されているという事実を考えると、日露戦争から第二次世界大戦までの日本の存在が世界の流れを大きく変えたといえます。また白人の有色人種に対する意識（白人優位主義）を変えるきっかけとなった日露戦争での秋山兄弟の関わりを考えると、世界の流れを変えた日本人としての「まつやま人」を誇りに思います。

いつの時代も、人々が「できることからやる」一歩によって歴史が積み重ねてこられました。そして今を生きる私達による「今」の積み重ねが未来を創っているのです。

今を生きる子供達の将来は、 意識的にも無意識的にも、 今を生きる大人達の「一歩」の結果でしかないのです。 JC メンバーの世代こそが将来に対して大きな影響力と責任を持っているといえます。

それではここで、私達の活動の場である「地域」をとりまく、「国」「住民」 について考えてみます。

～地域の個性はどこに？～

戦後、荒廃の中から立ち上がり、先進国並みの物質的豊かさを目指し、ナショナルミニマムを理想とする歩みが続けられました。全国に同じものを、たくさん配備する必要があったのです。必然的に、中央集権的なシステムができあがりました。国は地方に対して細部にまで関与・指導しました。

はじめのうちは、画一的な関与・指導でうまくゆきましたがインフラ整備等が一段落したあと、次第に、画一的な基準による判断では不都合になってきたのです。近年、これらの蓄積によると思わ

れる様々な問題が噴出してきました。

これまでの官僚主導ともいえる画一的な基準では、この国は動かなくなってきました。地方においても動けなくなってきました。1990 年に消費が止まって以来、持続的な経済成長が見込めない今、真の民主主義社会としての地方の姿、地方それぞれの個性に基づく地域主権型社会の確立が求められます。

～私達の存在意義～

「隣の犬がうるさい」「空き地の雑草をなんとかしろ」このような電話が市役所にかかってくるそうです。そして、これらの対応に税金が使われています。なぜ、こんな訳のわからない要求を行政にするのでしょうか。なぜ行政は、そんなことまで丁寧に対応するのでしょうか。

先に記しました、細部にまで関与する国の姿勢、これが、自治体の考える力を奪い、その結果、住民にとって地域のことは「他人事」になってしまいました。おまかせ民主主義の完成です。町内会のことも、PTA のことも、自分の直接的利益に無縁のものは「誰かがやる」。結果として、住民意識の低さゆえ、ここでも必要とあれば税金が使われます。

加えて、税収が少ない地方の場合、地方交付税に支えられることで地方格差が埋められます。これらのような営みの結果、国は大赤字です。国は地方を支えられなくなってきました。地方分権が推進される背景にはこのような事情もあるのです。

一人ひとりが地域のことを「わがこと」として捉え「できることは自分からやる」という意識を持ち始めることで現状は大きく変わるのではないでしょうか。松山市では、中核市への移行の準備が進められています。地域のことを地域で考え、決定してゆく、そんな松山市に生まれ変わろうとしています。地域が自立をはじめる訳ですから、近い将来において補助金や地方交付税に、これまでのような形で頼ることはできません。

そして、地域と地域の間で、いかに自らの個性を発揮できるかの知恵比べがはじまります。いや、もうはじまっているのです。省庁における「補助金のありかた」が柔軟になれば、自治体は施策の優先順位を、より地域事情に反映させたものとすることができます。中央からの財源も含めた実質的な権限委譲が効果的に進めば、より様敏な自治体の行政体制が望めます。また、自治体の「積極的に行う情報公開」が進めば、より多くの市民が意見を持つことができ、知恵を出し合える土壌が自然に生まれます。

市民が考え、市民が行う。主権在民を現実のものとする真の民主主義社会。このような地域主権型社会の実現に向けて、地方分権の推進・積極的な情報公開・積極的な説明冗任の確立・NPO をとりまく環境改善が必要とされています。綱領に謳われる「明るい豊かな社会を築き上げよう。」地域における JC の真価を問われる時代になったのです。

私達の存在意義をかけて、できることからはじめましょう。

～今、できること～

私達には、先輩諸氏のご努力の果実として、様々な素晴らしい事業があります。それらの歴史と

原点を踏まえながらも、決して既成にとらわれず、常に「どうすれば、より良くなるのか」を追求する姿勢が必要です。そうすることでより輝きを増す事業もたくさんあるはずです。少なくとも消極的な気持ちで行う事業は、どんなに苦労を重ねても結果は「消極的」なものでしかあり得ません。

好きだからこそ湧いてくる発想。こんな発想が良い結果をもたらす工夫に繋がってくるのです。そして、あなたがやろうとしていることを、あなた自身が好きになるのも嫌いになるのも、あなたの気持ちが決めることであって、誰にも変えられません。また、決して誰かが好きにさせてくれる訳でもありません。

JC 活動のみならず、仕事のことも家庭のことも、どうせやるなら「好き」になって行動したほうが確実に結果は良くなるはずです。

好きになってこそ「わがこと」として捉えられます。どれだけたくさんの物事や人々を良心に基づいて好きになれるか…これが心のサイズ、と私は思っています。こんな気持ちで、身のまわりに関心の輪を広げてみませんか。そして、「いきいきとしたまつやま」の実現に向け、様々な事業を通して「どうすれば、より良くなるか」を皆さんと一緒に考え、実践して行きます。

「周囲を巻き込む」とか、もっと範囲を広げて「市民を巻き込む」といったことを事業の企画段階でよく耳にします。大切なことではありますが、私達が「やって見せる」ことなくして誰をも「巻き込む」ことなどできはしないことを知り直しましょう。

当所信の冒頭に記した「挑戦」は、「やって見せる」ことの積み重ねでのみなし得ます。「そんなこと無理だ」と信じられていることを実際にやってみたとします。そこで出てくる結果こそが「やって見せる」ことに他なりません。結果を見ることが信じ直すきっかけとなります。１００の空論よりも、ひとつの実践で結果を示します。実践する動機が真摯なものであれば、必ず結果はそれに相応しいものになります。

私達が持ち得る様々な事業のひとつ一つを通じて、そこで目指すものを「やって見せる」ことを意識して取り掛かりましょう。そのためには数々の見直しや、場合によっては造り替えまでもが必要となる事業も出てくるとは思いますがこれらの弛まぬ繰り返しと、徹底した事業結果の検証と反省こそが組織の鮮度を保ったために必要なことと考えます。

「独立の心なきもの国を思うこと深切ならず。立国は公にあらず、私なり。」

これは、福沢諭吉の言葉ですが、身近に置き換えると次のようになります。

〈自立した「個」でなければ日本やまつやまのことを深く切実に捉えられない〉

〈日本とまつやまの将来を切り開くのは公ではなく、私（自立した個）である〉

青年とされる世代の責任と義務において「国や地域のことは他人まかせも住民」から「わがこととして国と地域を捉える自立した個としての市民」への意識移行を、市民（JC も市民）に対してモティベートする場として、また「明るく豊かなまつやまに向けて道しるべ」を広く市民に提示し得る機会として、16年の実績を持つ市民シンポジウムの枠組みを有効活用してゆきます。

今一度、「奉仕」の精神を奮い立たせ、私達の未来に、関心の輪を広げようではありませんか。

ここで「奉仕」について考えてみます。

～誠心誠意の「奉仕」がもたらす真の利益～

「奉仕」という言葉に対してのイメージとして代表的なものに「無償」や「非営利」などが挙げられます。以下に JCI クリードの末節を記しますが、ここにも「奉仕」という言薬が使われています。

人間の個性はこの世の至宝であり、人類への奉仕が人生最善の仕事である。

That earth's great treasure lies in human personality;and

That service to humanity is the best work of life

「こんな時勢だから自分のことだけで精一杯！」JCIクリードを読まれて、このような気持ちを持たれる方もいらっしゃることでしょう。まあ、これも一理なくもない。しかし、「こんな時勢」でありながら、成長している企業もあれば、昇給している人々がいるということも明らかな事実です。

「奉仕」とは、見返りを求めないこと、そして他人の利益を喜ぶ姿勢によってなされるものです。一見、自己の利益とは無縁です。しかしながら、「奉仕」の姿勢で労使契約を超える業務を行う社員は経営者から給料をこえる働きを評価され、結果として昇給します。また、そんな企業のサービスは価格を超える意義を消費者から評価され、結果として成長します。

資本主義制度のもとで人々は「自由」です。近代に入り、この「自由」 を盾に「自分さえよければ満足」ともいえる「心」で営みを続けてきました。その結果が、持続できない経済システム・環境問題・エネルギー 問題・教育問題等に表れている社会構造の歪みです。

このままではいけないと誰もが考えはじめました。つまり「自分さえよければ・・・・・」ではうまくゆかないことに誰もが気付きはじめました。

自分さえよければ・・・そんな「心」で「自由」を行ってきた結果としての近代の現在。

どんなに繕っても「自由」を行った結果は、それを行った「心」に等しいものです。

一昔前なら、企業活動あるいは生活の現場で、綺麗事･他人事として 一笑のうちに葬られていたことを、今では本気で扱う人々が増えてきました。ただ良いだけでは通用しないばかりか、心を磨き、磨かれた「豊かな心」で搾った知恵でないと評価されなくなってきました。

JC は、事業を通じて「社会と人間の開発」を行ってきました。そして、JC は利害の無い場です。

常に魁たらんとして、JC 活動に真剣に取り組めば、必然的に視野が広がり新たな出会いや学びが気付きをもたらし、自然な形で利害関係にとらわれない友情が生まれます。この気付きや友情があなたを磨き、またあなたも誰かを磨きます。この積み重ねが「豊かな心」を育むのです。

限られた人生において、何かの縁あって、皆さんは JAYCEEとして活動されています。せっかくだから卒業までの限られた時間、出会いに感謝し誠心誠意取り組むことで、精一杯磨きあってください。そこで得たあなたの「豊かな心」は、あなたの家庭、あなたの企業、あなたの関わる全てをより豊かに変革します。なにをやっても「心豊かな変革者」。そんなあなたに出会えるはずです。

これが誠心誠意の「奉仕」がもたらす真の利益。

～おわりに～

一見、受け入れがたい物事にも必ず原因があり、そこにはそれなりの事情もあるはずです。事情も知ろうとせず、ただ批判するだけでは、何も変わりません。親身になって「わがこと」として受け入

れてこそ、責任ある言動としての批判なりが意味を持ちます。他人事としての考えが頭の中を占めている限り、批判は単なる中傷でしかあり得ず、賞賛にしても単なる美辞の域を超えません。

市民がまちづくりを語る時、多くの場合においてその主張の動機は、それぞれの立場での正当な〈地域あるいは業界や団体等の存続に関わる固有の事情に起因する〉エゴが背景になることもあるかと思います。そして、それぞれ性質の異なるそれらに折り合いをつけながら、まちづくりは進んでゆくのだと思います。それぞれに背負っているものや守るべきものがある以上、当然のことだともいえます。

ところが、 JC にはエゴがありません。少なくともあるとすれば、それはまちづくりの過程に 自己研鑽の機会を見出そうとする欲求であり、一般的にはエゴとは解釈されないものです。そして、この点こそが社会における JC の大きな存在価値だといえます。どの場所にあっても、誰に対しても自己の組織のセキュリティーに気を使うことなく、正論を本音で発信することのできるニュートラルな組織。これが JC なのです。 何を言っても、何をやっても、それを良くも悪くも「組織の本音」として認識される団体なのです。これを意識してこそ、地域の将来に対して、より効果的に JC の能力を発揮することができます。

加えて、「 JC は市民」であることを今一度確認してみましょう。 私達が自らの存在価値を問う時、そこから得られる答えもあるはずです。

「魁たらんとする JC」
「拘束されない JC 」
「NO! と言える JC」
「個」を至宝とする、「心豊かな変革者」＝ JAYCEE
これほどの「自由」を潜在的に有している JC
「誇り」を持って地域を愛する心と
自信と勇気を持って踏み出す「一歩 J から
すべてが始まります。

さあ、始めましょう。